

全日本合唱連盟 文科省・文化庁と協議

全日本合唱連盟は2月18日、10日付の文部科学省・文化庁宛「要望書」について担当者との協議が行われたことを公表しました。内容は以下の通りです。(全文は[こちら](#))

- ①2月4日付文部科学省(以下、文科省)「事務連絡」(オミクロン株に対応した学校における新型コロナウイルス感染症対策の徹底について)発出の経緯と内容、合唱連盟「要望書」の見解と質問に対する説明を受けた。
- ②合唱や管楽器演奏を一律に控えなければならないのではなく、合唱連盟ガイドラインに沿って、対策を講じて実施することは否定していない
- ③文科省ウェブサイトの「よくあるご質問」に②に関してQ&Aの形で2月10日に掲載した。

文科省の「よくあるご質問」は以下のとおりです。

(https://www.mext.go.jp/index_00021.html#q1-24)

- Q** 合唱や管楽器演奏、調理実習等の学習活動を控えるように求めたことについてどのように考えているのか。
- A** オミクロン株に特徴的なクラスター事例として、運動部活動における、マスク等を着用した発声を伴う合同練習会、リコーダーの演奏時の飛沫の飛散や唾液によるもの、などが示された。こうした知見や専門家の意見も踏まえ、児童生徒が近距離で行う合唱や管楽器演奏、調理実習などの感染リスクが高い活動は、感染拡大時においては基本的に控えること、また、感染が拡大していない地域でも実施を慎重に検討すること。文科省としては、学びの継続が重要と考え、学校全体の休業は慎重であるべきとの方針でいる。

- Q** 2月4日に文科省から感染リスクが高いとして例示された活動は一律に控えなければならないか。

- A** これまでも学校の対応マニュアルにおいて、近距離での大声や呼気、接触等を伴う感染リスクの高い学習活動は、地域の感染レベルが高い場合は控えることとしてきた。オミクロン株による感染が子供の間にも急拡大している現況では、一時的に控えるという趣旨である。また、学校において、十分な距離をとり、方法等の工夫などで感染リスクを低減し実施している活動について、一律に控えることを求めている。学校教育において文化・スポーツは大変重要だと認識している。

【特にリスクの高い活動の例】

- ・各教科共通の活動として「児童生徒が長時間、近距離で

対面形式となるグループワーク等」及び「近距離で一斉に大きな声で話す活動」

- ・音楽における「室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」
- ・家庭、技術・家庭における「児童生徒同士が近距離で活動する調理実習」
- ・体育、保健体育における「児童生徒が密集する運動」や「近距離で組み合ったり接触したりする運動」

全日本吹奏楽連盟も要望書提出を公表

コロナ分科会および文科大臣宛て

全日本吹奏楽連盟は、2月4日付新型コロナウイルス感染症対策分科会の事務連絡「オミクロン株に対応した学校における新型コロナウイルス感染症対策の徹底について」と文科大臣のコメントに対して、7日に連盟としての見解および要望書を文科大臣国会事務所および文化庁学校芸術教育室に送付したことを17日ウェブサイトで公表しました。

吹奏楽連盟ウェブサイトでは、従来の『部会から』を『**理事長・部会から**』に改め、新設した『理事長からのお便り』のコーナーでこのことを掲載しました。以下に全文を記載しますが、吹奏楽連盟の見解や要望の詳細についてはとくに記載されていません。

理事長からのお便り

文部科学大臣の記者コメントについて(2022/02/16)

2月4日(金)に新型コロナウイルス感染症対策分科会より、事務連絡「オミクロン株に対応した学校における新型コロナウイルス感染症対策の徹底について」と末松信介文部科学大臣の記者コメントが発表されました。この発表に対して、7日(月)に全日本吹奏楽連盟としての見解および要望書を末松文部科学大臣国会事務所宛てに、あわせて文化庁学校芸術教育室宛てにお送りしました。

また、翌週14日(月)に一步踏み込んだ形での意見および要望書を、文部科学省初等中等教育局と内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室宛てに発送いたしました。

我々、全日本吹奏楽連盟の熱い思いが関係各位に十分に伝わることを祈りたいと思います。

(全日本吹奏楽連盟 <http://www.aiba.or.jp/index.html>)